



補聴器について

補聴器とは？

補聴器は普通の会話が聞き取りにくくなったときに、はっきりと聞くために使用します。

聴こえにくさをサポートする機器には価格の安い集音器もありますが、集音器は「音を一律に大きくする」ものがほとんどであり、「一般家電（音響機器）」の扱いです。それに比べて補聴器の場合は「一人一人の聴こえの状態に合わせ、聞き取りにくい音だけを大きくする」ように調整することができます。また、補聴器は厚生労働大臣が指定する管理医療機器のため、安全性の基準が非常に厳しいのも大きな特徴のひとつです。

難聴は、視力の低下と異なり自分で気づきにくいものです。聴こえにくさを放置していると、人との会話がかみ合わず疎外感を味わったり、日常生活にも支障をきたしたりして、うつや認知症のリスクが高まることもわかってきました。



日本人の平均寿命は男性で約81歳、女性で約88歳。これに対し、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は男性で約73歳、女性で約75歳。補聴器で聴こえを保つことで会話を弾ませ、いきいきとした生活を営んで、健康長寿を目指していきましょう。

【引用】

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
<https://www.jibika.or.jp/owned/contents5.html>
一般社団法人 日本補聴器販売店協会
<https://www.jhida.org/kounyu/>



補聴器が欲しいのですが、どうしたらよいでしょうか？



まずはあなたの聴こえの状態を知ることからはじめましょう。

聴こえが悪くなる原因は、加齢や耳の疾患によるものなど、個人によって異なります。

聴こえの程度や難聴の要因から適正な補聴器を選ぶには、耳鼻咽喉科を受診し専門的な知識・技能をもった技能者（認定補聴器技能者）のアドバイスを受けるのがよいでしょう。

「聴こえ」のセルフチェック

- 会話をしているときに聞き返すことがよくある
- うしろから呼びかけられると気づかないことがある
- 聞き間違いが多い
- 見えない所からの車の接近に全く気がつかないことがある
- 話し声が大きいと言われる
- 集会や会議など数人の会話がうまく聞き取れない
- 電子レンジの「チン」という音やドアのチャイムの音が聞こえにくい
- 相手の言ったことを推測で判断することがある
- 家族にテレビやラジオの音量が大きいと言われることがある

ひとつでも気になる項目、当てはまる項目がある場合は、補聴器が必要かもしれません。早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。

また最近では、補聴器専門販売店と連携している薬局もあります。かかりつけ薬局で気軽に相談してみるのもよいでしょう。